

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

7月6日

NO、13

子ども達のお小遣い

小・中学生の6割以上が、お小遣いの金額に満足しているという調査結果が出ました。(博報堂調査研究機関「こども研究所」調べ)

その金額ですが、1か月平均で小学生が1657円、中学生が3234円だそうです。皆さんは、お子さんにいくら渡しておられますか？

小学生の40.2%、中学生の46.2%が前年度よりも増額しています。その理由は、「学年が上がった」が約7割で、「物価高への対応」も3割程度ありました。

タイトルにもあるように、金額への満足度は、小学生で66%、中学生で67.7%が満足していると回答しています。

デジタル世代だと感じるのは、中学生の97.7%、小学生の17.7%が2次元決済アプリでお小遣いを受け取っているそうです。

お小遣いは、子どもの金銭感覚を育てるのは有効です。その一方で、トラブルの原因になっているのも事実です。本校もけっして例外ではありません。おごるという行為をしないようにと、学校では指導しています。

1, 定期的に渡す。

子どもに、計画的に使わせる意識を持たせることができます。

2, お小遣い帳等をつけさせる。

何にどれくらい使ったかを意識させることで、金銭感覚が身につきます。

3, ルールを決める。

お金の使い方について、子どもとの約束ごとを決める。もし、約束破った場合のペナルティーも決めておく。

4, 使い道に口出ししない。

無駄な買い物に思えても口出しは禁物です。失敗することで学ぶこともたくさんあります。

5, 前借りや補填はしない。

足りなくなったからといって補填をすると「足りなくなったら親が何とかしてくれる」という誤った認識をしてしまいます。また、親の気分で渡す金額が変わると、管理能力が育たなくなります。

お小遣いを通して、効果的な金銭教育をお願いします。



榎本小学校 校長 篠崎 勇